

第4章 基本的なアダプタの 使い方その1



OUTPERFORM THE FUTURE™

All Rights Reserved, Copyright(C) Magic Software Japan K.K. 2021

4.1 データマッパ



OUTPERFORM THE FUTURE™

4.1 データマッパー

- Magic xpi の代表的なコンポーネントであるデータマッパーは、データを送り元から送り先へマッピング、連携することができます。
- 連携することのできる送り元/送り先として以下の種類があります。

| | 送り元 | 送り先 |
|-------------------------|--------|-----------------------------------|
| XML ※1 | ○ | ○ |
| JSON ※1 | ○ | ○ |
| データベース | SELECT | INSERT, UPDATE, DELETE, UPSERT ※2 |
| フラットファイル(CSV, 固定長ファイル等) | ○ | ○ |
| 変数 | ○ | ○ |
| ODS | ○ | ○ |
| UDS | ○ | ○ |
| フロー呼び出し(Call Flow) | × | ○ |
| テンプレートファイル ※3 | × | ○ |

※1
XML、JSONを使用する
場合はスキーマファイルが必要

※2
UPSERTはMSSQL、Oracle
DB2、DB2/400、MySQL、
PostgreSQLで使用可能。
データベーススキーマプロパティ
「UPSERT」を「Yes」に設定

※3
HTMLやテキストに
xpi独自のタグを埋め込んだ
テンプレートファイルを用意し、
タグ部分に動的に値を設定



4.1 データマッパー

【データマッパーの設定例】

送り元: Flat File(CSV)

送り先: DataBase

CSVtoMSSQL (CSV→DB書込)*

送り元

| File | CSV |
|--------|-----------|
| Record | (1) |
| # | Name1 (1) |
| α | Name2 (1) |
| # | Name3 (1) |
| # | Name4 (1) |
| # | Name5 (1) |
| 10 | Name6 (1) |
| 10 | Name7 (1) |
| 10 | Name8 (1) |
| 10 | Name9 (1) |

送り先

| 商品マスタ | |
|-----------------|------------------------|
| dbo.MSSQL商品マスター | (1) |
| # | MSSQL商品マスター-商品番号 (1) |
| α | MSSQL商品マスター-商品名 (1) |
| # | MSSQL商品マスター-販売価格 (1) |
| # | MSSQL商品マスター-在庫数量 (1) |
| # | MSSQL商品マスター-仕入先コード (1) |
| 10 | MSSQL商品マスター-作成日 (1) |
| α | MSSQL商品マスター-作成時刻 (1) |
| 10 | MSSQL商品マスター-更新日 |
| α | MSSQL商品マスター-更新時刻 |

送り先側の項目ごとに関数による演算が可能

CSV→DB書込 (CSV→DB)

4.2 ディレクトリ スキャナ

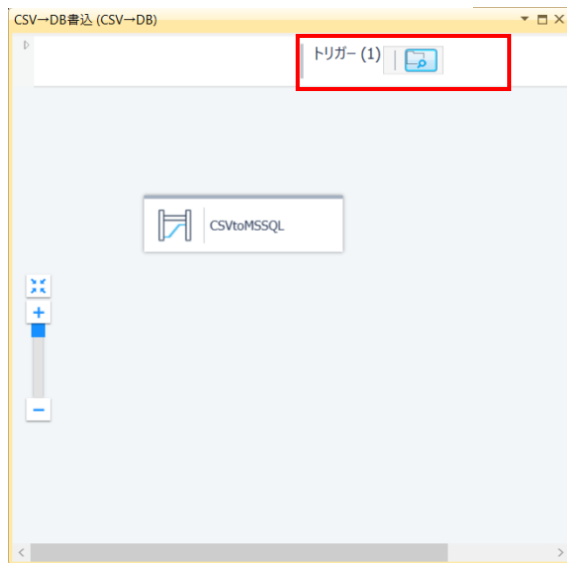


OUTPERFORM THE FUTURE™

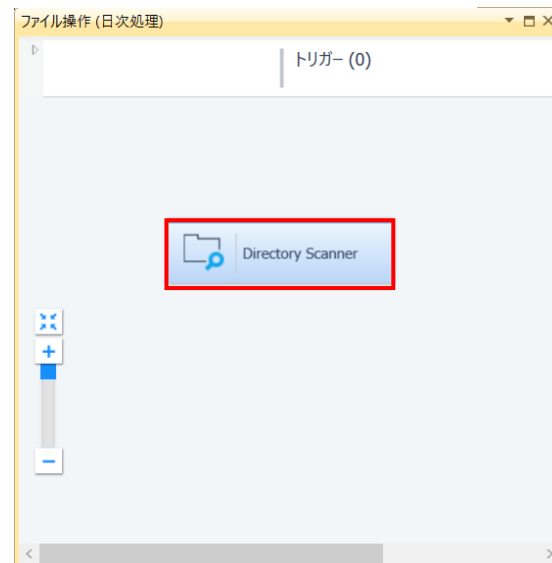
4.2 ディレクトリスキャナ

- ・ ディレクトリスキャナを使用すると、ディレクトリを監視・スキャンすることができます。
- ・ トリガーエリアに配置すると、ファイル出力をトリガーとしてフローを起動できます。
- ・ フローエリアに配置すると、ファイルの移動、削除、名前変更ができます。

トリガーエリアに配置



フローエリアに配置



4.3

CSVを監視し DBに取り込む



OUTPERFORM THE FUTURE™

4.3 CSVを監視しDBに取り込む

【仕様】

- ・ フォルダにCSVファイルが出力されるのを監視します。
- ・ ファイルが出力されたら、ファイルのデータを読み取り、ファイルは他のフォルダに移動します。
- ・ データマッパーを使用して、読み取ったデータをDB上の商品マスタに書き込みます。
- ・ CSVおよびDB上の商品マスタのレイアウトは下記の通りです。

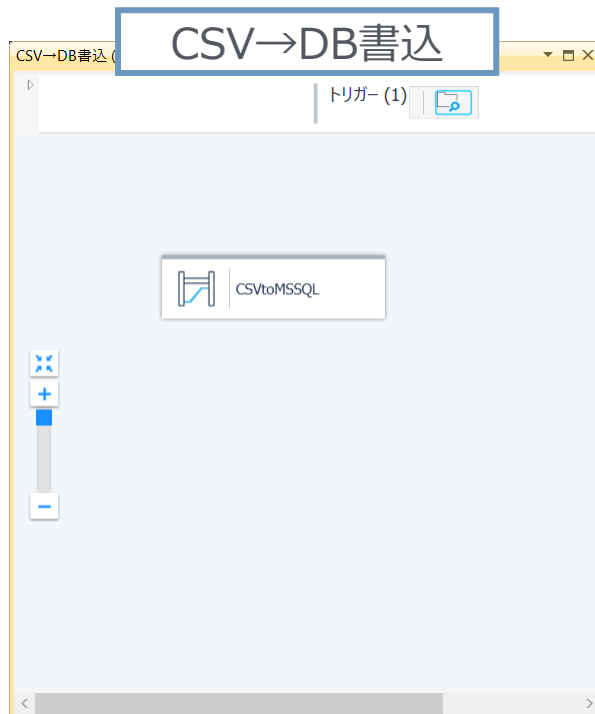
input1.csv - メモ帳

| | | | | | | | | |
|---------|--------|-------|-------|--------|-----------|---------|-----------|--------|
| ファイル(F) | 編集(E) | 書式(O) | 表示(V) | ヘルプ(H) | | | | |
| 900001, | 商品名1, | 100, | 10, | 100, | 20090205, | 193741, | 20090205, | 193741 |
| 900002, | 商品名2, | 200, | 20, | 200, | 20090205, | 193741, | 20090205, | 193741 |
| 900003, | 商品名3, | 300, | 30, | 300, | 20090205, | 193741, | 20090205, | 193741 |
| 900004, | 商品名4, | 400, | 40, | 400, | 20090205, | 193741, | 20090205, | 193741 |
| 900005, | 商品名5, | 500, | 50, | 500, | 20090205, | 193741, | 20090205, | 193741 |
| 900006, | 商品名6, | 600, | 60, | 600, | 20090205, | 193741, | 20090205, | 193741 |
| 900007, | 商品名7, | 700, | 70, | 700, | 20090205, | 193741, | 20090205, | 193741 |
| 900008, | 商品名8, | 800, | 80, | 800, | 20090205, | 193741, | 20090205, | 193741 |
| 900009, | 商品名9, | 900, | 90, | 900, | 20090205, | 193741, | 20090205, | 193741 |
| 900010, | 商品名10, | 1000, | 100, | 1000, | 20090205, | 193741, | 20090205, | 193741 |

| 列名 | データ型 |
|--------|---------------|
| 商品番号 | float |
| 商品名 | char(255) |
| 販売価格 | numeric(17,5) |
| 在庫数量 | float |
| 仕入先コード | float |
| 作成日 | datetime |
| 作成時刻 | char(6) |
| 更新日 | datetime |
| 更新時刻 | char(6) |

4.3 CSVを監視しDBに取り込む

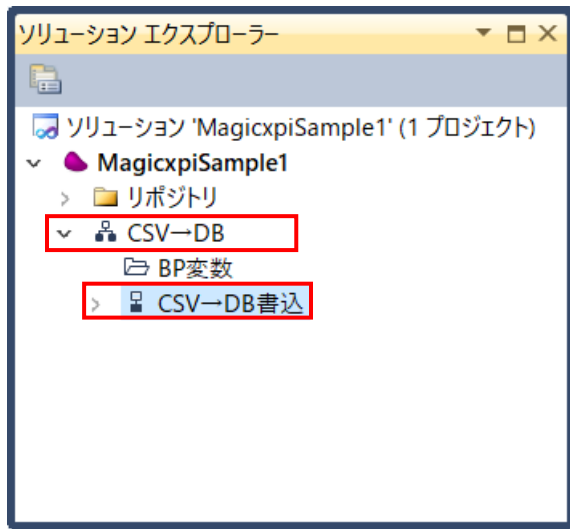
【フロー完成イメージ】



4.3 CSVを監視しDBに取り込む

【Magic xpi スタジオの起動】

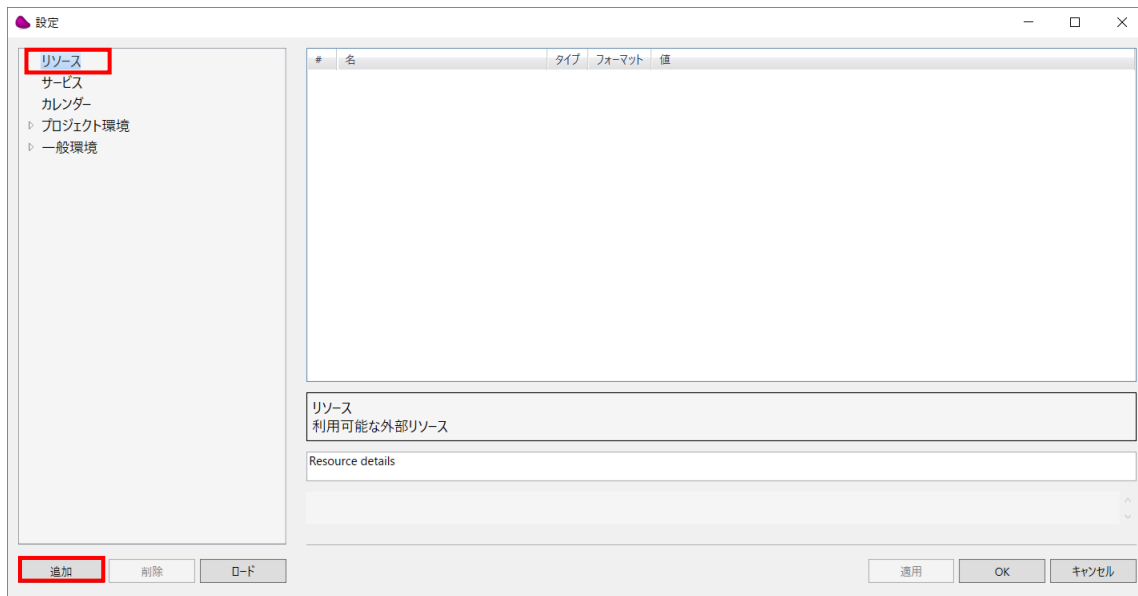
- ・ 「ファイル」メニューから「開く」を選択し「MagicxpiSample1.sln」を開きます。
- ・ ビジネスプロセスを右クリックし「CSV→DB」に名前変更します。
- ・ フローを右クリックし「CSV→DB書込」に名前変更します。



4.3 CSVを監視しDBに取り込む

【MSSQLデータベースリソースの登録】

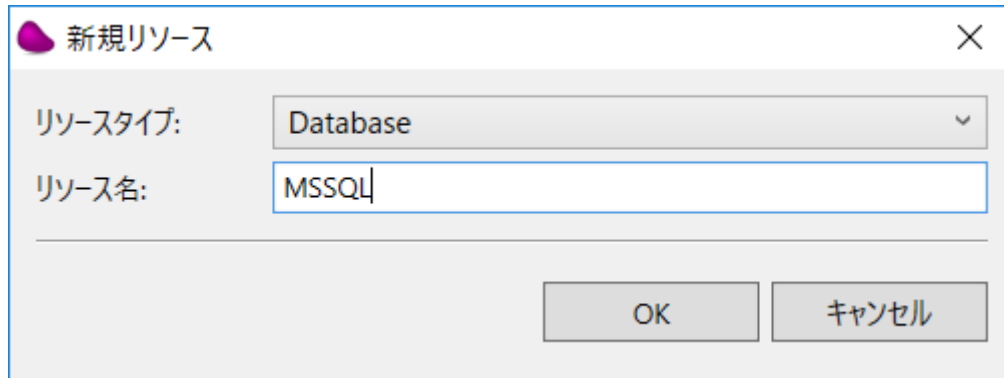
- ・ メニュー ＞ プロジェクト ＞ 設定をクリックします。
- ・ 左ペインで「リソース」が選択されている状態で「追加」ボタンを押します。



4.3 CSVを監視しDBに取り込む

- ・ リソースタイプ「Database」を選択します。
- ・ リソース名「MSSQL」と入力し、「OK」ボタンを押します。

※禁則文字(@、&、% 等)は使用できません。



新規リソース

リソースタイプ: Database

リソース名: MSSQL

OK キャンセル

4.3 CSVを監視しDBに取り込む

- 右ペインにデータベース接続のための詳細情報を入力します。
- 入力が終わったら画面下部の「検証」ボタンを押します。

| # | 名 | タイプ | フォーマット | 値 |
|---|---------|-----|--------|----------------------|
| 1 | DBMS | 文字 | 30 | Microsoft SQL Server |
| 2 | データベース名 | 文字 | 30 | iBOLTTest |
| 3 | サーバ | 文字 | 30 | .¥SQLEXPRESS |
| 4 | ユーザ | 文字 | 30 | sa |
| 5 | パスワード | 文字 | 30 | **** |
| 6 | 開始オーナー | 文字 | 30 | |

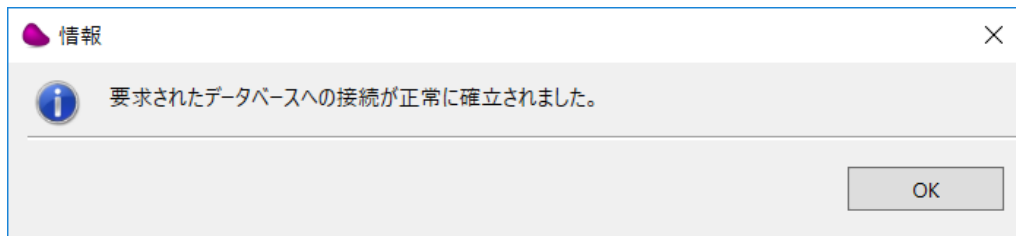
| 名 | 値 |
|---------|----------------------------|
| DBMS | Microsoft SQL Serverを選択します |
| データベース名 | iBOLTTest |
| サーバ | .¥SQLEXPRESS |
| ユーザ | sa |
| パスワード | mgtr |

※ご利用の環境にあわせて設定します。

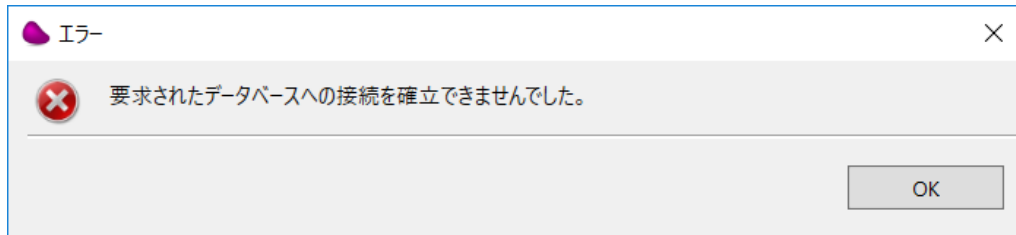
4.3 CSVを監視しDBに取り込む

- ・ データベースへ接続できた場合は、設定を保存します。
- ・ データベースへ接続できなかった場合は、設定を修正してください。

接続OKの場合



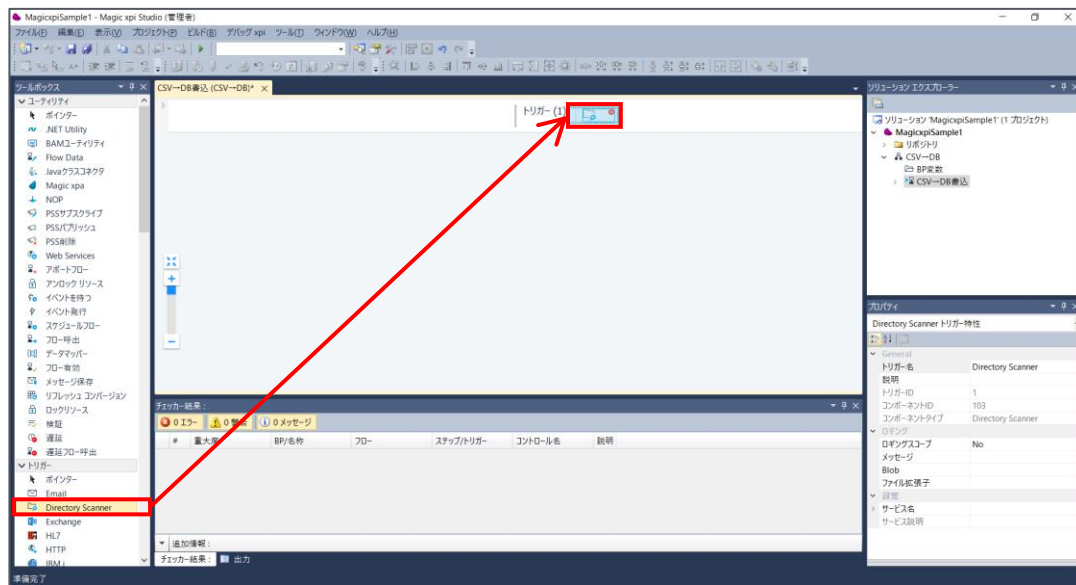
接続NGの場合



4.3 CSVを監視しDBに取り込む

【ディレクトリスキャナの設定】

- 「CSV→DB書込」フローをダブルクリックし、フローエディタを開きます。
- ツールボックスから「DirectoryScanner」をトリガーエリアにDrag&Dropします。



4.3 CSVを監視しDBに取り込む

- 「DirectoryScanner」をダブルクリックして設定画面を開き、下記のように設定します。

コンポーネント設定：ディレクトリスキヤ

| # | 送り元 | ディレクトリ | サブディレクトリ | フィルタ | アクション | 送り先ディレクトリ | マスク | ポーリング間隔(ミリ秒) | キーブアラップ間隔(分) |
|---|-----|----------------|----------|------|-------|---------------|-----|--------------|--------------|
| 1 | LAN | EnvVal('currer | | **.* | Move | EnvVal('curre | | 3000 | d |

[新規]ボタンで
行を追加します

新規

削除

ログと戻値詳細

| | |
|--------------|---|
| 送り元 | LAN |
| ディレクトリ ※ | EnvVal('currentprojectdir') & 'FileIn' |
| フィルタ | *.* |
| アクション | Move |
| 送り先ディレクトリ ※ | EnvVal('currentprojectdir') & 'FileIn¥done' |
| ポーリング間隔(ミリ秒) | 3000 |

※「鉛筆」アイコンをクリックし、式アシスター画面で式を入力します(次頁)。



4.3 CSVを監視しDBに取り込む

【式アシスター】

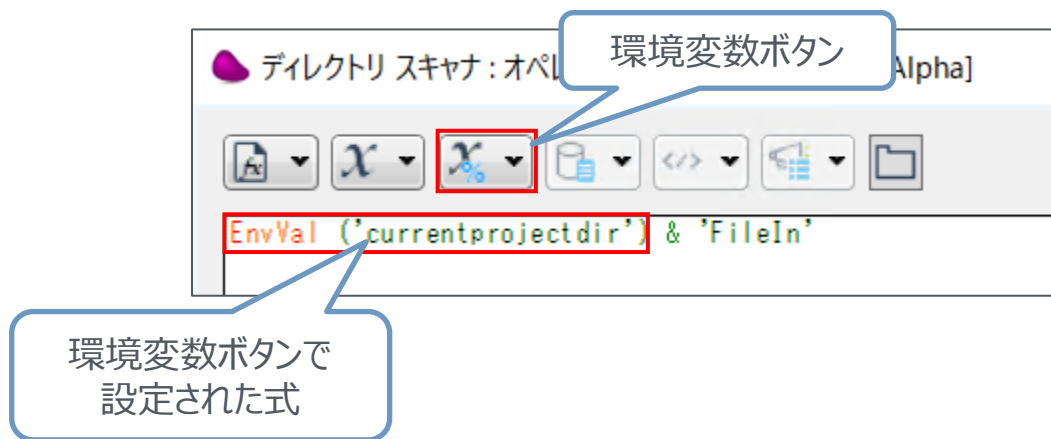
- 「鉛筆」アイコンをクリックすると「式アシスター」画面が表示されます。
- 各ボタンによる入力補助機能を使用して式を作成し、文法チェックを行うことができます。

| | |
|--|---------------------------------|
| | 関数ボタン 使用できる関数の一覧表示 |
| | 変数ボタン 使用できる変数の一覧表示 |
| | 環境変数ボタン 使用できる環境変数の一覧表示 |
| | ODSボタン 使用できるODSの一覧表示 |
| | ソースノードボタン 使用できる送り元ノードの一覧表示 |
| | PSSトピックボタン 使用できるPSSトピックの一覧表示 |
| | ファイル選択ダイアログ ファイル選択ダイアログの表示 |

4.3 CSVを監視しDBに取り込む

【式アシスターの環境変数ボタン】

- ・ 式アシスター画面の環境変数ボタンを押し「currentprojectdir」をダブルクリックします。
- ・ 環境変数の値を取得するEnvVal関数を使用した式が設定されます。
- ・ 環境変数「currentprojectdir」の値は、現在のプロジェクトフォルダのパスです。



4.3 CSVを監視しDBに取り込む

- 「ログと戻値詳細」ボタンをクリックして、ログと戻値詳細画面を表示します。
- 取得ファイル内容保存先に、変数「C.UserBlob」を設定します。

コンポーネント設定：ディレクトリスキャナ

| # | 送り元 | ディレクトリ | サブディレクトリ | フィルタ | アクション | 送り先ディレクトリ | マスク | ポーリング間隔(ミリ秒) | キーアライブ間隔(分) |
|---|-----|-----------------|----------|------|-------|-----------------|-----|--------------|-------------|
| 1 | LAN | EnvVal ('currer | | ** | Move | EnvVal ('currer | | 3000 | d |

ログと戻値詳細

ログ詳細

☐ ログアクション

タイプ: テキスト

Log file path:

戻値詳細

取得ファイル内容保存先: C.UserBlob

送り先ファイル名保存先: C.UserString

送り元ファイル名保存先:

引数XMLの場所を選択:

General

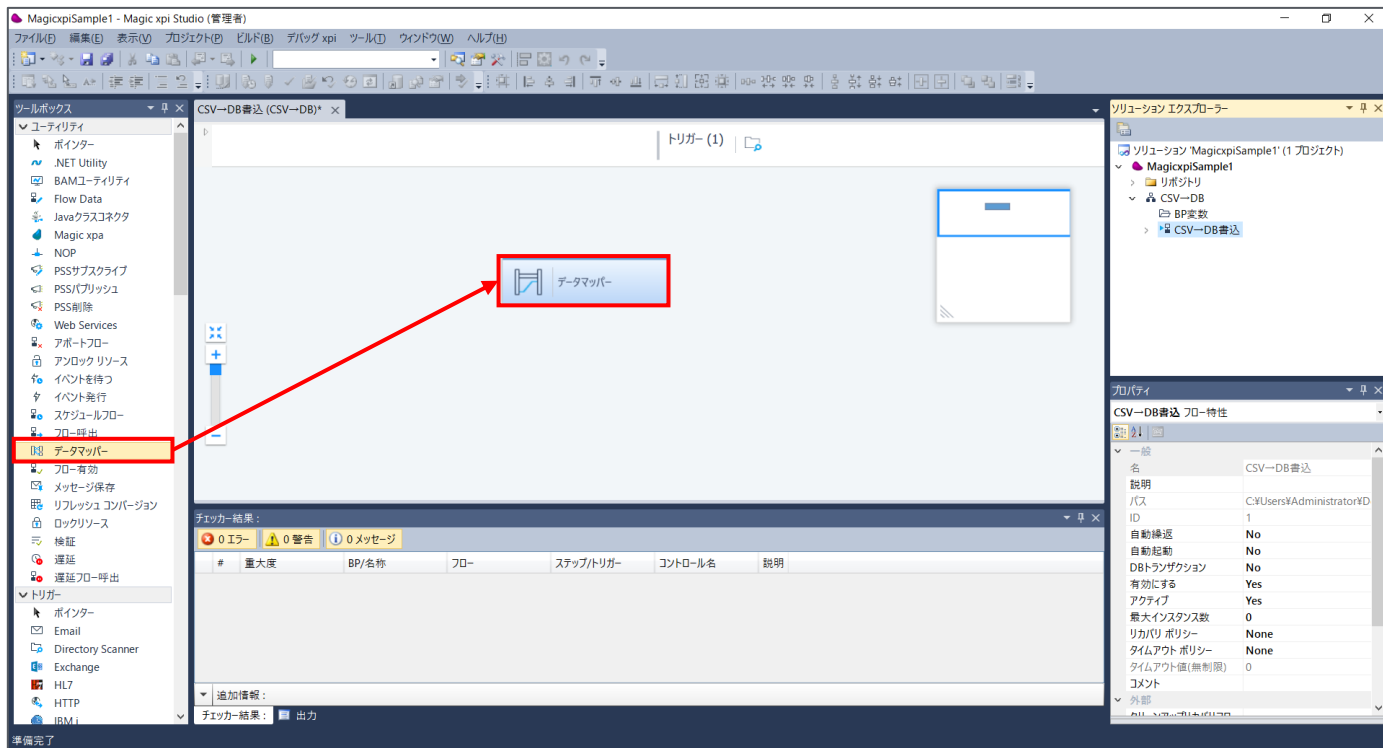
FTP転送モード: Binary

OK

| | |
|-------------|------------------------------|
| 取得ファイル内容保存先 | ファイルの内容が格納される変数名 |
| 送り先ファイル名保存先 | 監視したファイルが移動した後のフルパスが設定される変数名 |
| 送り元ファイル名保存先 | 監視したファイルが移動する前のフルパスが設定される変数名 |
| 引数XMLの場所を選択 | 上記要素を含む全パラメータがXMLとして保存される変数名 |

4.3 CSVを監視しDBに取り込む

- ツールボックスから「データマッパー」をフローエリアにDrag&Dropします。



4.3 CSVを監視しDBに取り込む

- データマッパーを選択し、プロパティペインでステップ名を設定します。

The screenshot shows the Magic xpi Studio interface. On the left, the 'Toolbox' pane lists various utilities, with 'CSVtoMSSQL' highlighted by a red box and a callout bubble that says 'データマッパーをダブルクリック (次頁)' (Double-click the data mapper (next page)). In the center, the 'Canvas' area shows a 'Trigger (1)' and a 'Step' box. On the right, the 'Solution Explorer' pane shows the project structure, with 'CSVtoMSSQL' selected. Below the canvas, the 'Properties' pane shows the 'General' tab with the 'Step Name' (ステップ名) set to 'CSVtoMSSQL'.

| # | 重大度 | BP/名称 | フロー | ステップ/トリガー | コントロール名 | 説明 |
|---|-----|-------|-----|------------|---------|----|
| 1 | | | | CSVtoMSSQL | | |

| General | |
|---------------|------------|
| ステップ名 | CSVtoMSSQL |
| 説明 | |
| ステップID | 2 |
| コンポーネントID | 11 |
| コンポーネントタイプ | データマッパー |
| 条件 | |
| 処理モード | リニア |
| 完了を待つ | No |
| アドバンスド | |
| セーブポイント | No |
| コールバックフロー | No |
| マッパー | |
| エラー動作 | Continue |
| DBトランザクション | |
| DBトランザクションレベル | Mapper |

4.3 CSVを監視しDBに取り込む

- マップ画面が表示されます。
- 送り元にFlat FileをDrag&Dropし、プロパティペインで以下のように設定します。

| 送り元タイプ | Variable |
|----------------|------------|
| データ送り元エンコーディング | ANSI |
| 変数 | C.UserBlob |
| 名 | CSV |

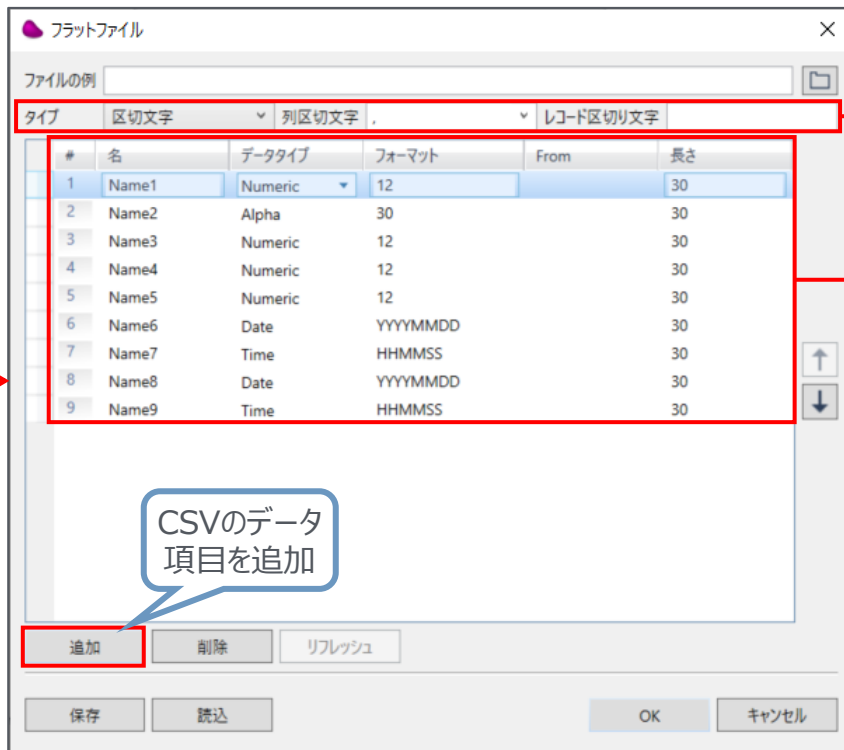
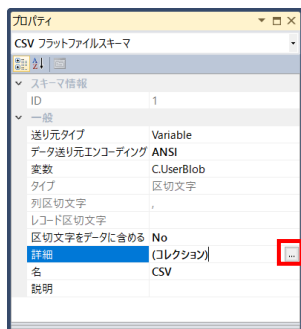


OUTPERFORM THE FUTURE™

4.3 CSVを監視しDBに取り込む

【フラットファイルの詳細設定】

- 詳細の右側の[...]ボタンをクリックし、フラットファイルの詳細設定画面を表示します。



| | | |
|-------|-------|---------|
| タイプ | 区切文字 | 可変長 |
| | ポジション | 固定長 |
| 列区切文字 | , | カンマ区切り |
| | SPACE | スペース区切り |
| | TAB | タブ区切り |

| | |
|--------|------------|
| 名 | CSVのデータ項目名 |
| データタイプ | データの型 |
| フォーマット | 書式 (桁数) |



OUTPERFORM THE FUTURE™

4.3 CSVを監視しDBに取り込む

- 送り先にDataBaseをDrag&Dropし、プロパティペインで以下のように設定します。

データベース定義

| データベース定義 | MSSQL |
|----------|-------|
| 名 | 商品マスタ |

プロパティ

| プロパティ | 商品マスタ Database Schema |
|----------|-----------------------|
| ID | 2 |
| 名前 | |
| 説明 | |
| ファイナード | |
| SQL文 | |
| 動的SQL文 | No |
| データベース定義 | MSSQL |
| DB切断 | No |
| エラー処理フロー | |
| 名 | 商品マスタ |
| 説明 | |

準備完了

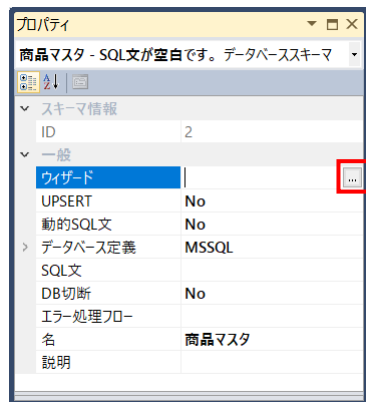


OUTPERFORM THE FUTURE™

4.3 CSVを監視しDBに取り込む

【データベースウィザード】

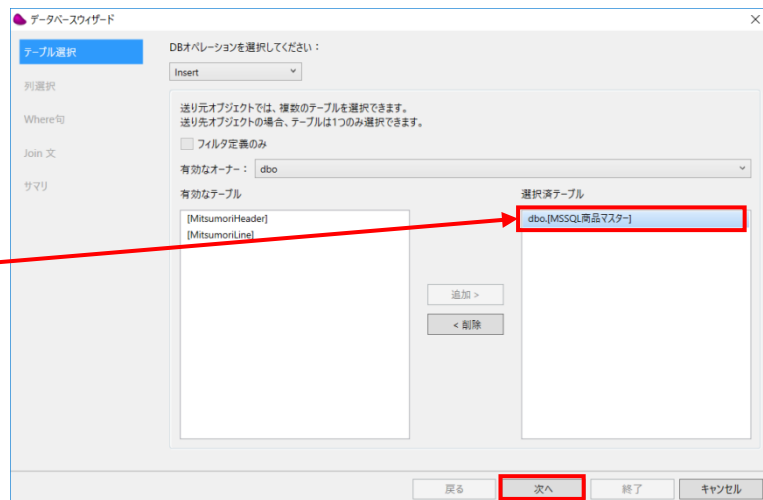
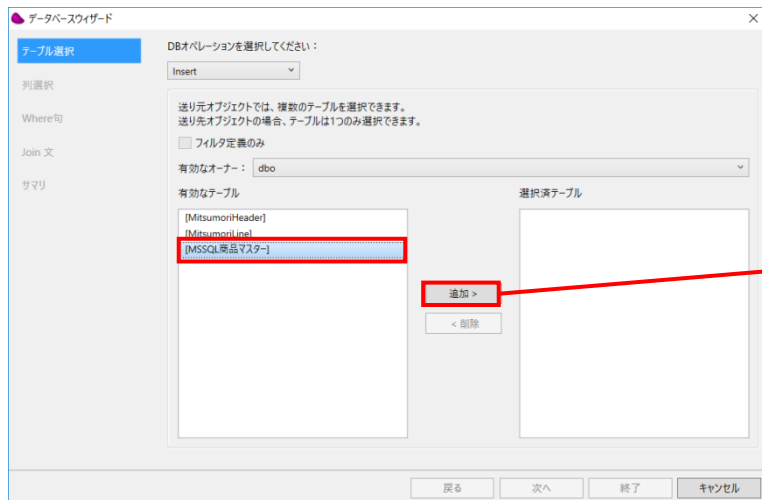
- ウィザードの右側の[...]ボタンをクリックし、データベースウィザード画面を開きます。



4.3 CSVを監視しDBに取り込む

【テーブルの選択】

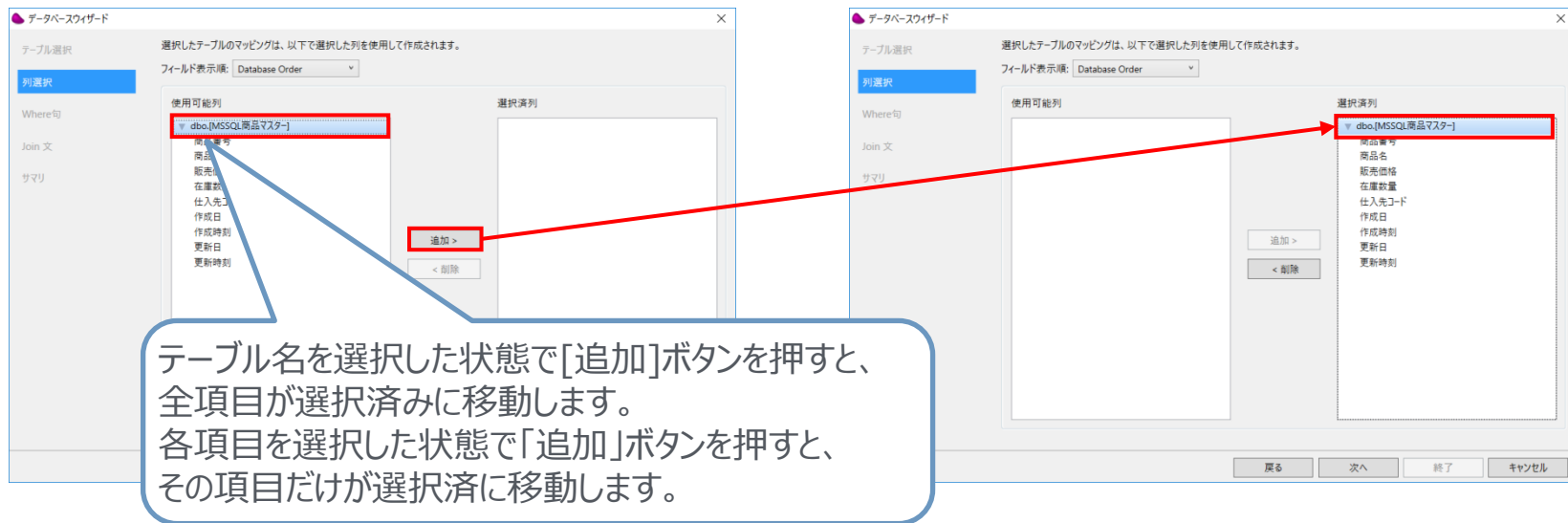
- 「MSSQL商品マスター」を選択し「追加」ボタンで追加し、「次へ」ボタンを押下します。



4.3 CSVを監視しDBに取り込む

【列の選択】

- 「MSSQL商品マスター」を選択し「追加」ボタンで追加し、「次へ」ボタンを押下します。



4.3 CSVを監視しDBに取り込む

【SQL文の自動生成】

- 「終了」ボタンを押し、送り先の設定を完了します。

データベースウィザード

テーブル選択
列選択
Where句
Join文
サマリ

データベースウィザードで作成されたSQL文。
SQL文を変更し、ウィザードの結果を上書きすることができます。

☒ 変換

SQL文

[INSERT INTO dbo.[MSSQL商品マスター] ([MSSQL商品マスター].商品番号,[MSSQL商品マスター].価格,[MSSQL商品マスター].在庫数量,[MSSQL商品マスター].仕入先コード,[MSSQL商品マスター].更新日,[MSSQL商品マスター].更新時刻)]

変換済SQL文

[INSERT INTO dbo.[MSSQL商品マスター] ([MSSQL商品マスター].商品番号,[MSSQL商品マスター].価格,[MSSQL商品マスター].在庫数量,[MSSQL商品マスター].仕入先コード,[MSSQL商品マスター].作成日,[MSSQL商品マスター].作成時刻,[MSSQL商品マスター].更新日,[MSSQL商品マスター].更新時刻)]

戻る 次へ 終了 キャンセル

「変換」にチェックをつけると、SQL文中の環境変数が、実際の値に置き換えられて「変換済SQL文」として表示されます。

例) WHERE dbo.[MSSQL商品マスター].商品名 = '%product_name%'
→ WHERE dbo.[MSSQL商品マスター].商品名 = 'デスクトップPC'

【マッピング】

- ・ マップ画面で下図のようにマッピングを行います。

送り元や送り先を右クリックし、「全展開」をクリックすると項目が展開されます。

子ノードを一つでもマッピングすると、自動的に親ノードが二重線で結ばれます

更新日と更新時刻はマッピングせず、「計算値」プロパティに式を設定します(P.32)

接続の仕方(P.30)
接続の削除の仕方(P.31)

4.3 CSVを監視しDBに取り込む

【接続の仕方】

- 送り元の項目をドラッグし、送り先の項目にドロップ

The first screenshot shows a 'Record' list on the left with 'Name1' selected (highlighted in red). A dashed blue line with a blue box labeled 'Name1' indicates the data being moved. On the right, the 'dbo.MSSQL商品マスター' table is shown with 'MSSQL商品マスター 商品番号' selected (highlighted in red). The second screenshot shows the same setup, but the dashed line is now yellow, and the 'Name1' label is in a yellow box, indicating the connection is complete.

- 送り元の項目を右クリックし「接続」をクリック → 送り先の項目をクリック

The first screenshot shows a 'Record' list on the left with 'Name1' selected (highlighted in red). A right-click context menu is open over 'Name1', with the '接続' (Connect) option highlighted (highlighted in red). On the right, the 'dbo.MSSQL商品マスター' table is shown with 'MSSQL商品マスター 商品番号' selected (highlighted in red). The second screenshot shows the same setup, but the dashed line is now yellow, and the 'Name1' label is in a yellow box, indicating the connection is complete.

4.3 CSVを監視しDBに取り込む

【接続の削除の仕方】

- 送り元の項目を右クリックし「接続を削除」をクリック

The screenshot shows two panels. The top panel shows a 'Record' list with 'Name1' and 'Name2'. 'Name1' is selected, and a context menu is open with '接続を削除' (Delete Connection) highlighted. A red box highlights the 'Name1' row. The bottom panel shows the same 'Record' list, but 'Name1' is no longer present, only 'Name2' remains. A speech bubble points to the 'Name1' row in the top panel with the text 'その項目の接続のみ削除される' (Only the connection for that item is deleted).

| Record | 接続を削除 |
|---------|-------|
| # Name1 | (1) |
| α Name2 | (1) |

| dbo.MSSQL商品マスター | 接続を削除 |
|--------------------|-------|
| # MSSQL商品マスター 商品番号 | (1) |
| α MSSQL商品マスター 商品名 | (1) |

- 送り元の親項目を右クリックし「全ての接続を削除」をクリック

The screenshot shows two panels. The top panel shows a 'Record' list with 'Name1', 'Name2', and 'Name3'. 'Name1' is selected, and a context menu is open with '全ての接続を削除' (Delete All Connections) highlighted. A red box highlights the 'Name1' row. The bottom panel shows the same 'Record' list, but 'Name1' is no longer present, only 'Name2' and 'Name3' remain. A speech bubble points to the 'Name1' row in the top panel with the text '全ての接続が削除される' (All connections are deleted).

| Record | 全ての接続を削除 |
|---------|----------|
| # Name1 | (1) |
| α Name2 | (1) |
| # Name3 | (1) |

| dbo.MSSQL商品マスター | 全ての接続を削除 |
|--------------------|----------|
| # MSSQL商品マスター 商品番号 | (1) |
| α MSSQL商品マスター 商品名 | (1) |
| # MSSQL商品マスター 販売価格 | (1) |

4.3 CSVを監視しDBに取り込む

【式アシスターの関数ボタン】

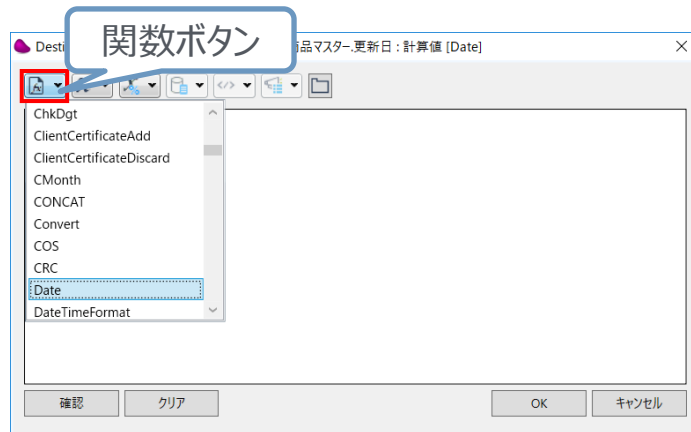
- 式アシスターの関数ボタンを押すと、ドロップダウンリストに関数が表示されます。
- 関数をダブルクリックすると、式の中に関数が挿入されます。

Date(): システム日付取得

DStr(日付, 書式): 日付型→文字型変換

Time(): システム時刻取得

TStr(時刻, 書式): 時刻型→文字型変換



| 送り先 (MSSQLの商品マスタ) | 「計算値」に設定する式 |
|-------------------|------------------------|
| MSSQL商品マスター.更新日 | Date() |
| MSSQL商品マスター.更新時刻 | TStr(Time(), 'HHMMSS') |

4.3 CSVを監視しDBに取り込む

- 以上でフローの作成は終了です。

The image displays two screenshots of the Magic xpi Studio (Magic xpi Studio (実演用)) interface, illustrating the configuration of a workflow for monitoring CSV files and importing data into a database.

Top Screenshot: Shows the initial workflow configuration. The main canvas displays a 'CSVtoDB' component. The left sidebar lists various components, including 'データベース' (Database) and 'CSVtoDB'. The right sidebar shows the 'プロジェクト' (Project) tree, listing components like 'Magic xpi Studio', 'CSVtoDB', and 'CSVtoDB-DB'.

Bottom Screenshot: Shows the detailed configuration of the 'CSVtoDB' component. The 'CSVtoDB' component is selected, and its properties are visible. The 'CSVtoDB' component is configured to monitor CSV files and import data into a database. The 'CSVtoDB' component is configured with the following settings:

- CSVファイル:** CSV
- データベース:** MSSQL
- テーブル:** MSSQL商品マスタ
- フィールド:** Name1, Name2, Name3, Name4, Name5, Name6, Name7, Name8, Name9
- フィールドタイプ:** Text, Text, Text, Text, Text, Text, Text, Text, Text

The bottom screenshot also shows the 'CSVtoDB-DB' component, which is configured to monitor the database and export data to a CSV file. The 'CSVtoDB-DB' component is configured with the following settings:

- データベース:** MSSQL
- テーブル:** MSSQL商品マスタ
- フィールド:** Name1, Name2, Name3, Name4, Name5, Name6, Name7, Name8, Name9
- フィールドタイプ:** Text, Text, Text, Text, Text, Text, Text, Text, Text

4.4

プロジェクトビルド → Magic モニタ で実行



OUTPERFORM THE FUTURE™

4.4 プロジェクトビルド → Magic モニタで実行

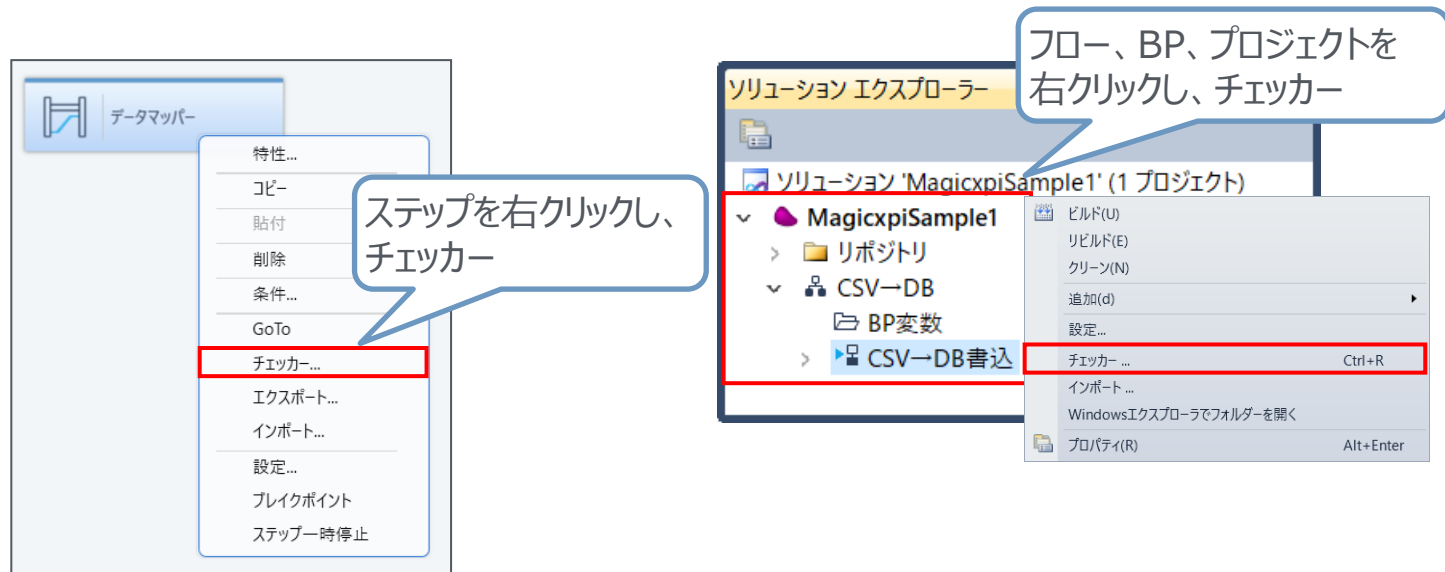
- ・ プロジェクトをビルドしてMagicモニタから実行し、「CSV→DB書込」フローの動作を確認しましょう。



4.4 プロジェクトビルド → Magic モニタで実行

【チェッカー】

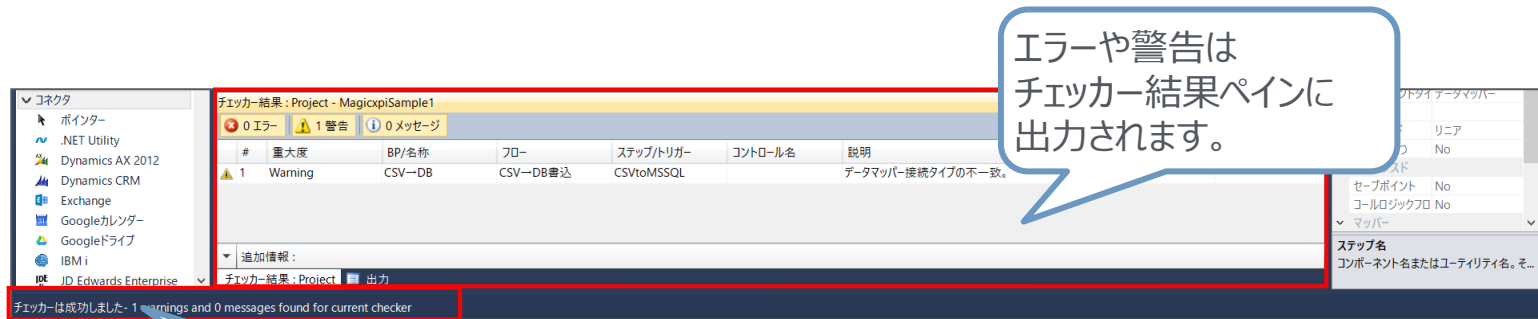
- ・ ビルドを行う前に、チェッカーを使用して文法上のエラーがないか確認します。
- ・ チェッカーは、ステップ、フロー、BP、プロジェクトレベルで実行できます。



4.4 プロジェクトビルド → Magic モニタで実行

【チェッカー結果の確認】

- ・ チェッカーの結果はチェッカー結果ペイン、ステータスバーで確認します。
- ・ エラーや警告の行をダブルクリックすると、該当箇所に遷移します。



エラーがない場合は、「チェッカーは成功しました」と表示されます。



OUTPERFORM THE FUTURE™

4.4 プロジェクトビルド → Magic モニタで実行

【ビルド】

- 作成したプロジェクトをMagic xpi サーバで実行するために、プロジェクトをビルドして実行形式にします。ビルドメニューには以下の3種類があります。

| | |
|--------------|--|
| ソリューションのビルド | 修正したプロジェクトの差分をビルドします。 |
| ソリューションのリビルド | プロジェクト全体を再ビルドします。 |
| ソリューションのクリーン | プロジェクトフォルダ下の下記のファイルとフォルダを削除します。 <プロジェクト名>.ibp Tempフォルダ _optフォルダ mappergenerateフォルダ |

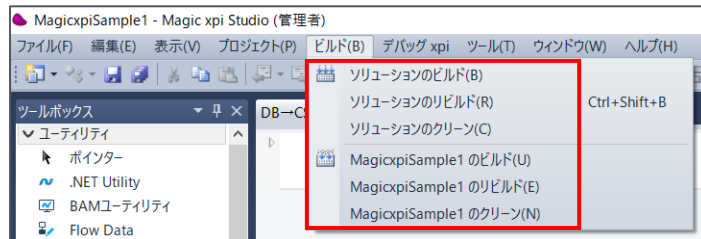
- ビルドとリビルドを実行すると、最初にチェッカーが実行され、エラーがある場合にはビルドは実行されません。



4.4 プロジェクトビルド → Magic モニタで実行

【ビルドの実行】

- ・ メニュー ＞ ビルドからリビルドを実行します。
- ・ Magic xpi のプロジェクトは、ソリューション1つにつき、プロジェクトが1つなので、ソリューションのビルドもプロジェクトのビルドも違いはありません。



【ビルド結果の確認】

- ・ ビルドの結果はステータスバーで確認します。

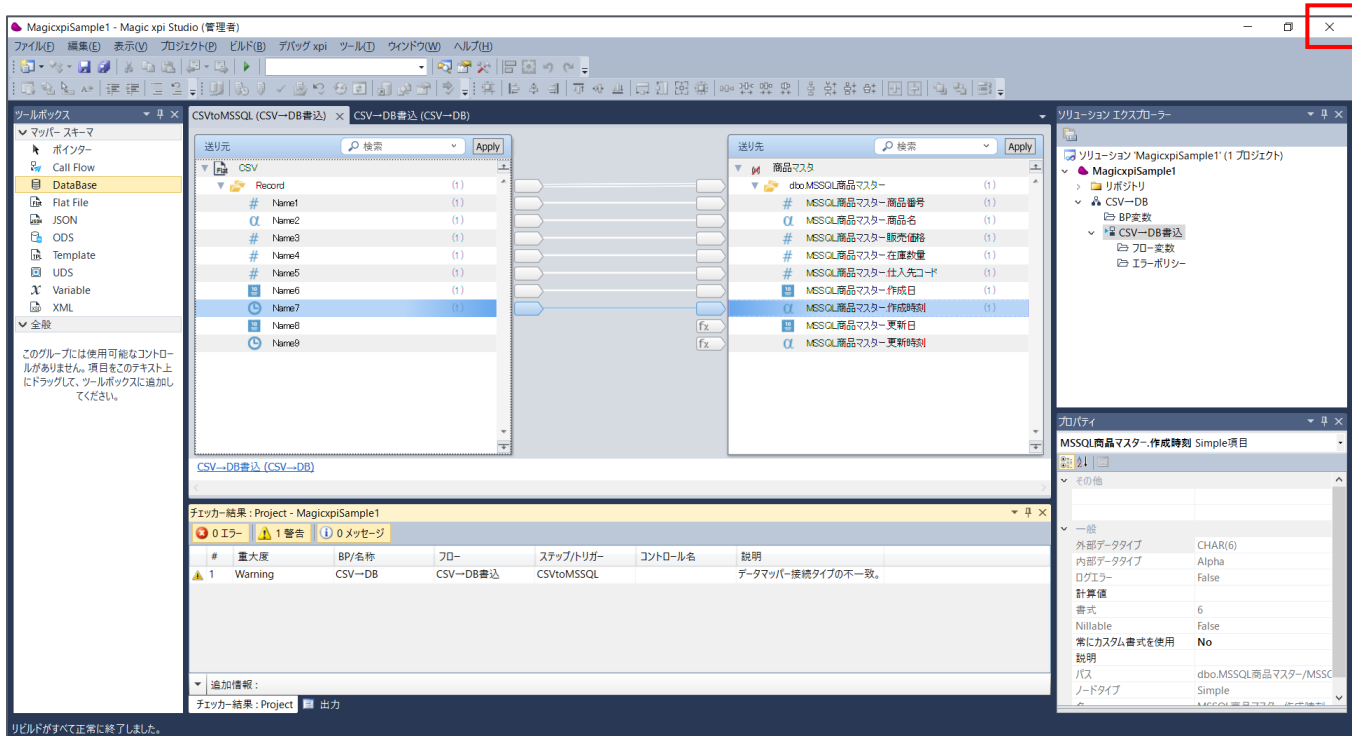
ビルドが正常に終了した旨のメッセージが表示されます。



4.4 プロジェクトビルド → Magic モニタで実行

【xpi スタジオの終了】

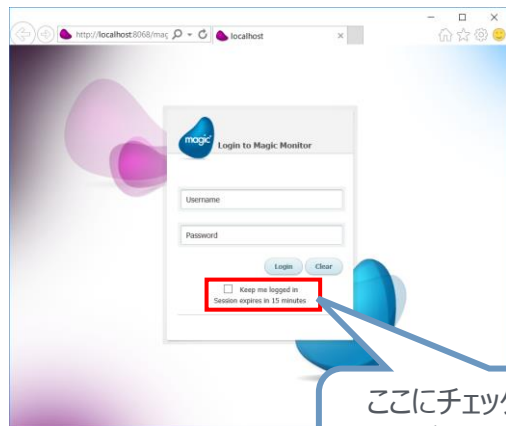
- ビルドが終了したら、「×」ボタンでxpi スタジオを閉じます。



4.4 プロジェクトビルド → Magic モニタで実行

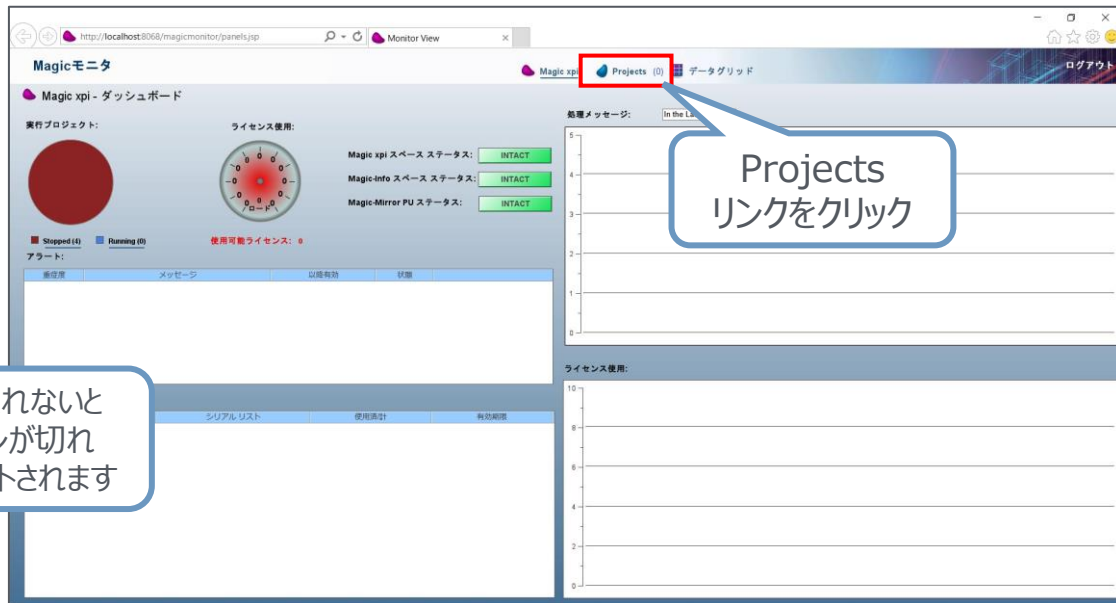
【Magic モニタの起動】

- デスクトップのショートカットからMagic モニタを起動します。



ここにチェックを入れないと
15分でセッションが切れ
自動的にログアウトされます

| | |
|-------|----------|
| ユーザ | admin |
| パスワード | changeit |



4.4 プロジェクトビルド → Magic モニタで実行

【Magic モニタでのプロジェクト実行】

- ビルドしたプロジェクトをMagic モニタで実行します。

プロジェクトが開始されると左端のアイコンが緑色になります。

①プロジェクト「MagicxpiSample1」を選択します。

②「開始」ボタンをクリックします。

※プロジェクトを選択すると背景色が濃い青色になります。背景色が薄い青色だと「開始」ボタンを押してもプロジェクトは起動しません。

| 開始 | プロジェクトリスト | ステータス | 警報 |
|----|-----------------|---------|----|
| | MagicxpiSample1 | STOPPED | 0 |

クリックして背景色が濃い青色となったことを確認して下さい。

| 開始 | プロジェクトリスト | ステータス | 警報 |
|----|-----------------|---------|----|
| | MagicxpiSample1 | STOPPED | 0 |

4.4 プロジェクトビルド → Magic モニタで実行

【データベースのデータ確認】

- データベースのデータを確認するにはManagement Studioを使用します。

SQL Server

サーバーの種類(T): データベース エンジン

サーバー名(S): EC2AMAZ-Q8OHKMBKSQLEXPRESS

認証(A): SQL Server 認証

ログイン(I): sa

パスワード(P): *****(パスワードを保存する(N))

接続(O) キャンセル ヘルプ オプション(O) >>

| ユーザ | sa |
|-------|------|
| パスワード | mgtr |

データベース : iBOLTTTest
テーブル : dbo.MSSQL商品マスター

右クリックし、
「上位1000行の選択」をクリック

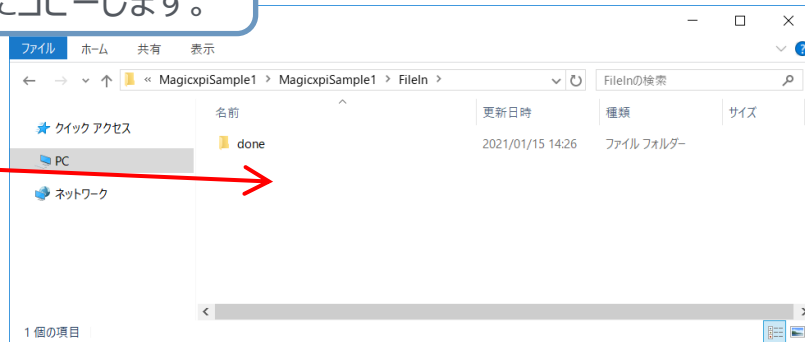
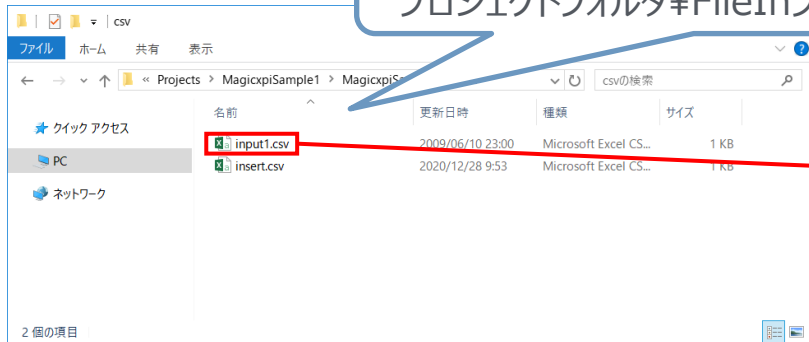
MSSQL商品マスターに
データがないことを確認

4.4 プロジェクトビルド → Magic モニタで実行

【ファイルの配置】

- CSVファイルを監視フォルダにコピーします。

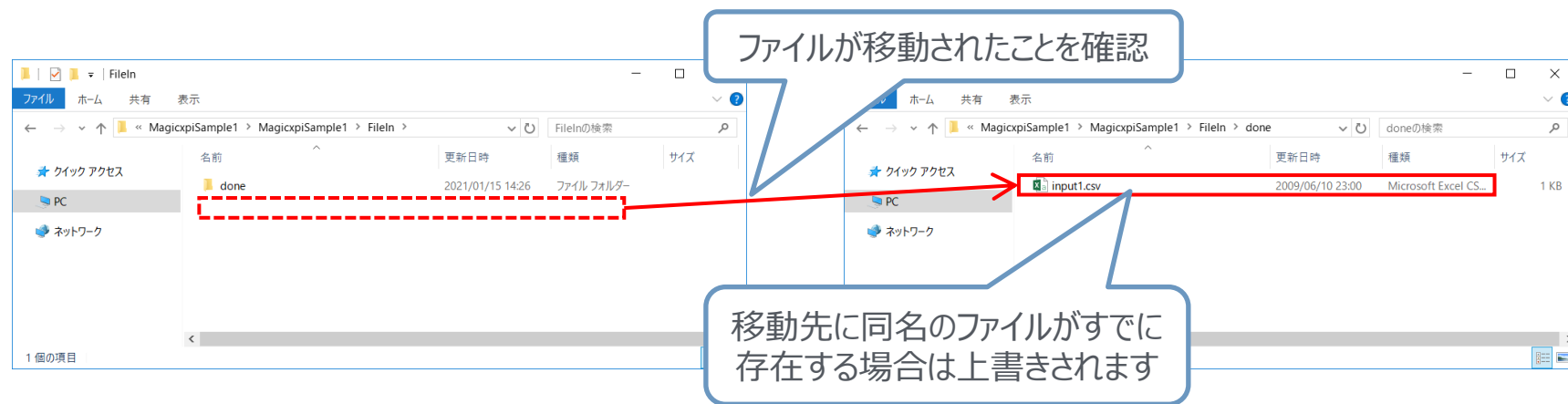
プロジェクトフォルダ¥csv¥input1.csvを
プロジェクトフォルダ¥FileInフォルダにコピーします。



4.4 プロジェクトビルド → Magic モニタで実行

【ファイルの確認】

- ファイルが移動されたことを確認します。



4.4 プロジェクトビルド → Magic モニタで実行

【Magic モニタの確認】

- 「アクティビティログ」タブでフローの実行状況を確認します。

アクティビティログをクリック

アクティビティログが表示されていることを確認します

| Date & Time | メッセージタイプ | メッセージ文字列 | ステップ | FSID | FileId |
|-------------------------|--------------------------|---|-------------------|------|--------|
| 11/15/2021 14:45:26.217 | File completed | Execution time: 00:00:00.474 | | 1 | |
| 11/15/2021 14:45:26.207 | Flow component completed | Execution Time: 00:00:00.381 | CSVtoMSSQL | 1 | |
| 11/15/2021 14:45:27.833 | Flow component started | Linear | CSVtoMSSQL | 1 | |
| 11/15/2021 14:45:27.747 | Flow started | | | 1 | |
| 11/15/2021 14:44:56.407 | Trigger Started | | Directory Scanner | 0 | |
| 11/15/2021 14:44:54.727 | Server started | Instance number 3. The server was started | | 0 | |

4.4 プロジェクトビルド → Magic モニタで実行

【データの確認】

- DBテーブルにレコードが追加されたことを確認します。

The screenshot shows the Microsoft SQL Server Enterprise Manager interface. The left pane displays the 'EC2AMAZ-QBOHKMBVSQL EXPRESS (SQL Server 13.0.4541)' server tree, with the 'dbo.MSSQL商品マスター' table selected. The right pane shows the 'Properties' window for the selected table. The bottom pane displays the 'Results' window, showing a table with 10 rows and 10 columns. The columns are: 商品番号, 商品名, 販売価格, 在庫数量, 仕入先コード, 作成日, 作成時刻, 更新日, 更新時刻, and 更新時刻. The data is as follows:

| 商品番号 | 商品名 | 販売価格 | 在庫数量 | 仕入先コード | 作成日 | 作成時刻 | 更新日 | 更新時刻 | 更新時刻 |
|--------|-------|------------|------|--------|-------------------------|--------|-------------------------|--------|------|
| 900001 | 商品名1 | 100.00000 | 10 | 100 | 2009-02-05 00:00:00.000 | 193741 | 2021-01-15 00:00:00.000 | 140109 | |
| 900002 | 商品名2 | 200.00000 | 20 | 200 | 2009-02-05 00:00:00.000 | 193741 | 2021-01-15 00:00:00.000 | 140109 | |
| 900003 | 商品名3 | 300.00000 | 30 | 300 | 2009-02-05 00:00:00.000 | 193741 | 2021-01-15 00:00:00.000 | 140109 | |
| 900004 | 商品名4 | 400.00000 | 40 | 400 | 2009-02-05 00:00:00.000 | 193741 | 2021-01-15 00:00:00.000 | 140109 | |
| 900005 | 商品名5 | 500.00000 | 50 | 500 | 2009-02-05 00:00:00.000 | 193741 | 2021-01-15 00:00:00.000 | 140109 | |
| 900006 | 商品名6 | 600.00000 | 60 | 600 | 2009-02-05 00:00:00.000 | 193741 | 2021-01-15 00:00:00.000 | 140109 | |
| 900007 | 商品名7 | 700.00000 | 70 | 700 | 2009-02-05 00:00:00.000 | 193741 | 2021-01-15 00:00:00.000 | 140109 | |
| 900008 | 商品名8 | 800.00000 | 80 | 800 | 2009-02-05 00:00:00.000 | 193741 | 2021-01-15 00:00:00.000 | 140109 | |
| 900009 | 商品名9 | 900.00000 | 90 | 900 | 2009-02-05 00:00:00.000 | 193741 | 2021-01-15 00:00:00.000 | 140109 | |
| 900010 | 商品名10 | 1000.00000 | 1000 | 1000 | 2009-02-05 00:00:00.000 | 193741 | 2021-01-15 00:00:00.000 | 140109 | |

A blue callout bubble points to the 'dbo.MSSQL商品マスター' table in the right pane, containing the text: 商品マスターテーブルにレコードが追加された



OUTPERFORM THE FUTURE™

4.4 プロジェクトビルド → Magic モニタで実行

【Magic モニタでのプロジェクト停止】

- プロジェクトを選択し、「停止」ボタンを押します。

The diagram illustrates the steps to stop a project in Magic Monitor. It shows a 'Stop Param...' dialog box with a 'タイムアウト(秒):' (Timeout in seconds) field set to 60. Red arrows indicate the flow from the 'RUNNING' status to the dialog box, and then to the 'STOPPED' status. The 'OK' button in the dialog is highlighted with a red box. Below the main interface, a callout box provides details about the timeout setting.

【タイムアウト値の設定】
「OK」ボタンを押した瞬間、全てのトリガが停止し、プロジェクトは新しいリクエストを受け付けなくなりますが、すでに処理中のリクエストについては、タイムアウト値に達するまで処理が継続されます。
※通常はアクティビティログで処理が完了していることを確認してからプロジェクトを停止してください。
※即時停止したい場合は最低値「1」を指定します。